

1. プロジェクトの目的

- 目的① 令和元年度に構築した仕組みを活かし、新潟市が注力している**都心部の魅力向上を狙いとしたまちづくりに資する**データ取得・分析・連携に取り組みたい。
- 目的② **交通事業者の採算性向上とデータ提供を促す**、データ利活用ビジネスモデルを構築したい。

※「りゅーとなび」導入の意義

上記の**プロジェクトの目的および MaaS アプリとしての本来の目的を踏まえ**、「りゅーとなび」導入の意義を以下に整理する。

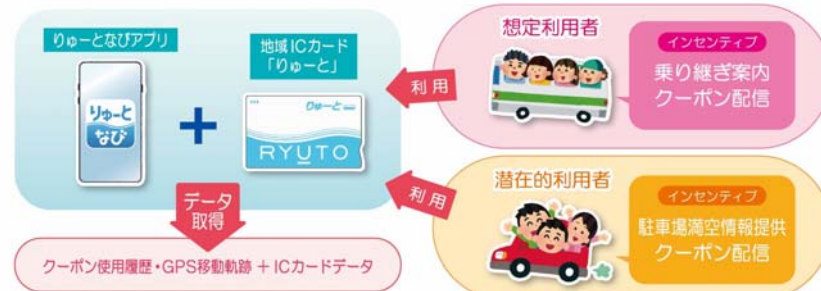
わたしたちは、「りゅーとなび」により以下の3つを実現することを目指しています。

- ①過度な自家用車依存低減**
 - ・「りゅーとなび」により**公共交通の利便性を向上**させ過度な自家用車依存を低減します。
- ②まちなかの賑わい復活**
 - ・「りゅーとなび」により**移動手段と移動目的を統合**しまちなかへのおでかけを促進するとともに、得られた**データを活かして効果的なまちづくり施策を検討**します。
- ③持続可能な公共交通サービスの提供**
 - ・上記①②より、**交通事業者等の採算性向上に繋げて**持続可能な公共交通サービスの提供に寄与します。

2. 実証実験の実施内容

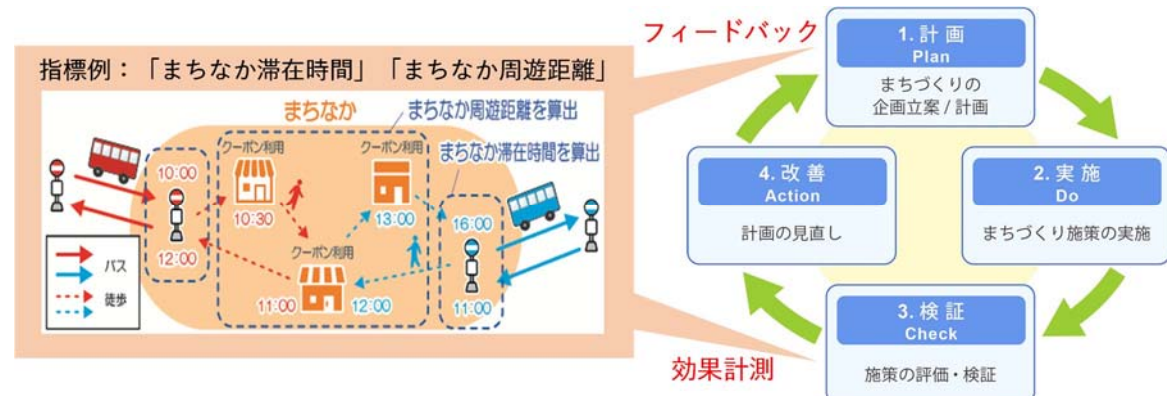
(1)りゅーとなび

- 乗り継ぎ案内 / クーポン配信 / **データ取得(クーポン使用履歴、GPS 移動軌跡) + 地域 IC カード「りゅーと」連携** ※発行枚数 20 万枚以上



(2)まちづくりへのデータ利活用【ユースケース①：まちづくりの効果計測】

- まちづくりの効果として、「まちなか滞在時間」や「まちなか周遊距離」等を**計測し、施策検討にフィードバック**。
- アンケート調査と違って**長期的・継続的にモニタリング**できることにメリットがあり、**長期計画で実施されるまちづくりの効果を把握**し、継続的に PDCA サイクルを回すことが可能。



(2)まちづくりへのデータ利活用

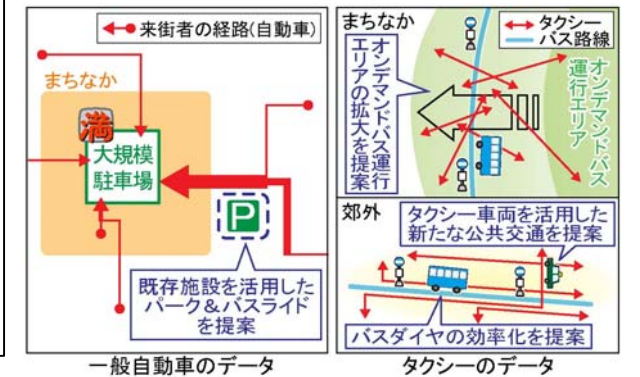
【ユースケース②：まちなか周遊行動分析による連続性の高い歩行空間の検討】

- MaaS アプリによる**まちなか移動データ** (クーポン使用履歴、GPS 移動軌跡) + IC カードデータから**周遊行動を分析**、細やかな動きを把握し**連続性の高い歩行空間を検討**。
- 新モビリティ導入**を含めた**都心軸の具体的な施策検討**が可能。



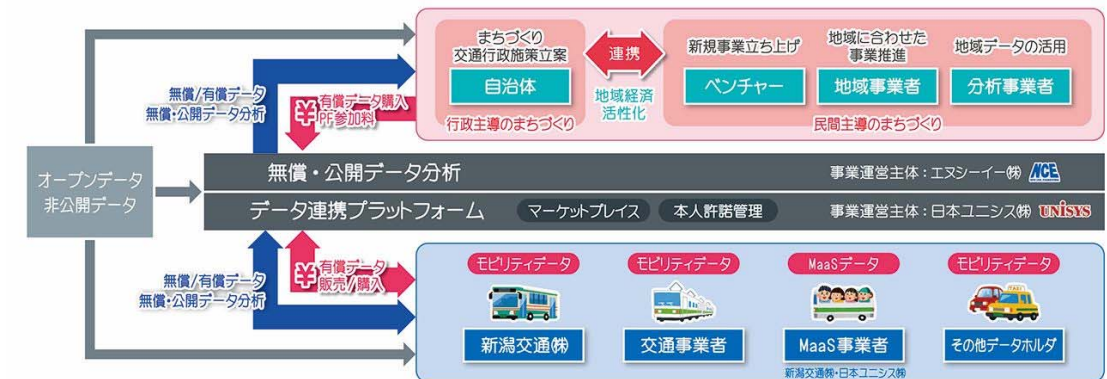
(2)まちづくりへのデータ利活用【ユースケース③：マルチモーダルなデータの利活用】

- 1) 一般自動車のデータ(プローブ、駐車場満空)
 - 駐車場の満車時間帯**について、来街者の **OD・経路を分析**、パーク&バスライド等のより**効率的な都心部アクセス方法等の施策検討**が可能。
- 2) タクシーのデータ(タクシープローブ)
 - IC カードデータと重ねて分析することで、オンデマンドバスのエリア拡大など**バスとタクシーの棲み分けの具体的な施策検討**が可能。



(3)データ利活用ビジネスモデルの構築

- まちなか移動データをビジネスに活かす**ための方策検討 / **各種データ提供を促す**ための方策 (経営判断材料) 検討 → 「データ使用料等の**直接収入**」や「まちなかの活性化による本来事業の収入増加等の**間接収入**」を認識することで合意形成が図られるものとする。



※将来的にはモビリティ以外のデータホルダも参画する地域事業者全体のデータ連携PFを目指す。

3. スケジュール (予定)

実験開始：2020年12月1日(火) } 実験期間 約3か月
 実験終了：2021年2月28日(日)